



ネットイーグル社長

祖父江久好氏

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、非住宅木造建築市場の拡大に向けて、ゼネコンや設計事務所へのCADの提案を強化している。同社のCADはプレカットCADであると同時に構造設計CADでもあり、上位のゼネコンや設計事務所に活用が広がれば入力が合理化されるからだ。半面、加工や収まりを知るプレカット工場の手を借りないと設計は完結せず、「プレカット工場の設計に果たす役割は大きい」と祖父江社長は指摘する。

住宅市場はコスト高と需要の低迷で、ますますレッドオーシャンになる。プレカット工場が過当競争を避けようとするれば、設計サポートや建て方、パネル化などで付加価値を高めるか、非住宅受注を強化するしかない。改正建築基準法の施行により、住宅は300平方

メートル以上のアパートはもとより、戸建てでも許容応力度計算で設計する住宅が増えていく可能性がある。プレカット工場が設計サポート

ゼネコン設計事務所へのCAD提案強化

プレカット工場との連携重要

方以上のアパートはゼネコンや設計事務所もとより、戸建てでも許容応力度計算で設計する住宅が増えていく可能性がある。プレカット工場が設計サポートをするなら、建築士と事務所登録をして業としてやっていくべきだ。プレカット工場が設計に果たす役割は非住宅でも高まってくる。データを読み込み、出ることができるシステムを開発した。これにより、BIMとの連携が可能になり、3次元データを受け渡しができる。特に2×4工法は建築棟数の多いアパートの多くが構造計算の対象になるため、関係業者の当社CADへの関心は高い。アパートは設備との干渉を気にする会社が多く、非住宅とアパートで先行してBIMの流れが広がっていくとみている。基礎CADは住宅向けに開発したため、現在、非住宅に対応する新しい基礎CAD「アドバンベース」を開発中で、完成すれば中大型木造でも構造躯体に配慮した基礎設計ができるようになる。当社のCADは加工がていく。

だ。構造設計と伏図設計は別物で、伏図には当社はすべての生産系CADに自社開発の許容応力度計算システムを用意しており、CADデータで基礎から一体的に構造計算できるためのCADである。

現状は限られた建築士しか一般流通材で設計できないが、CADを通じてレギュラー材が何かを知ってもらえば、裾野がもっと広がっていく。